

平成 30 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、天気は数日の周期で変化しましたが、北日本や東・西日本日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。2 日から 3 日にかけてと 7 日から 9 日にかけては、低気圧が日本付近を通過して、西日本から北日本の広い範囲で雨となり、大雨となった所がありました。また、東シナ海からのびる前線が日本の南を南下したため、奄美地方で 7 日頃、沖縄地方で 8 日頃に梅雨入りしました（速報値）。低気圧が通過した後は、日本付近に寒気が流れ込んだため、期間の後半は全国的に気温が平年を下回りました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、東・西日本太平洋側から沖縄・奄美にかけては高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。16 日は多くの地点で真夏日となりました。17 日から 19 日にかけて、東北地方を中心に上空の寒気や前線、湿った空気の影響で局地的に大雨となり、浸水などの被害が発生しました。

下旬も高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、北日本では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。東日本太平洋側や西日本では、期間の後半を中心に本州の南岸を進む低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。九州南部で 26 日頃、九州北部地方（山口県を含む）と四国地方では 28 日頃に梅雨入りしました（速報値）。

月平均気温は、東日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・西日本で高くなりました。月降水量は、北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東・西日本で多くなりましたが、沖縄・奄美ではかなり少なくなりました。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった一方、東・西日本日本海側では少なく、北日本と西日本太平洋側では平年並でした。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値（注）より 2 ポイント高い 74%でした。各地方の適中率は、東北地方と北陸地方、近畿地方、四国地方以外で例年値を上回り、特に沖縄地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 2.7 で、すべての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値並みの 1.9 で、北海道地方と近畿地方、沖縄地方では例年値を下回りましたが、それ以外の地方では例年値以上となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。週間予報で曇りや雨の日が予想され平年より気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなど、向こう一週間の天気や気温の傾向を農作物管理等に活用してください。